SPECIAL ISSUE

特集

学校の仲間と語る「私たちはなぜ学ぶのか？」

「高校生未来プロジェクト」学校実施型が示す学びの意欲向上のヒント

「生徒の学びの意欲の低下」という課題の解決策を考える材料の1つとして、本誌2013年6月号で、ベネッセ教育総合研究所が主催した「高校生未来プロジェクト（以下、未来ＰＪ）」を紹介した。未来ＰＪに参加した高校生たちは、学びの意味や目的をテーマにした語り合いを通して、学びの意欲を高めたが、読者からは「学校という日常の場において同様の取り組みを行っても、学びの意欲は向上するのか」という声が多く寄せられた。そうした点について検証するべく、ベネッセ教育総合研究所は2013年度に全国4つの高校で未来ＰＪを実施。そこでの生徒たちの変化を通して、再び、生徒の学びの意欲について考える。

「高校生未来プロジェクト」に対する読者の声

◎未来ＰＪに効果があり、有意義な取り組みであることは、実施前からある程度、予測できたと思う。問題は、このような非日常の取り組みで変化するのではなく、参加者と同様の変化を、学校で遂げられるようにすることではないか。我々の目の前にいる生徒も、大きく変化できるものを内在している。それを発揮せずに終わらせてしまっていることを、強く受け止める必要がある。そこに生徒を学びに誘う根本的な解決策が潜んでいるような気がする。（岩手県）

◎「少人数のグループの方が話しやすい」という参加者の言葉や、初対面であっても勉強や進路について議論できたということが、学校生活における生徒たちの、教師には見えない日常を示唆しているように感じた。授業、ＬＨＲ、「総合的な学習の時間」など公的な場で、どんなテーマについても、生徒が自分の考えを発言し、他人の考えに耳を傾けられるような取り組みが非常に重要だと思った。（千葉県）

◎参加した高校生の言葉に、いろいろと考えさせられた。「何でも話せる雰囲気が学校にあるか」と言われれば、「ない」と答えざるを得ない。参加者は非日常的な場だからこそ本音を話せたのかもしれないが、教師が意識して何でも話せる環境を整えられれば、生徒は学びの意義を自ら見いだすことが出来るのだろうか。（和歌山県）

＊『VIEW21』高校版 2013 年 6 月号特集について聞いた読者モニターへのアンケート結果（2013 年 6 月にウェブとファクスで実施。有効回答数は 64）より。

本号のテーマ

「学校」という日常の場において、生徒たちが学びの意味・目的を語り合うことは、学びの意欲の向上につながるのか?

「高校生未来プロジェクト」の追跡調査

「高校生未来プロジェクト」の参加者を追跡調査した結果から、学びの意味や目的を本気で語り合うことは、高校生の学びの意欲を向上させるだけではなく、向上した意欲を持続させる効果もあると分かった。

「高校生未来プロジェクト」、その概要と成果【P.6 ～ 9】

高校生が学びの意味・目的を本気で語り合う機会を、「学校」という日常の場に設けても、学びの意欲は向上するのか?

ベネッセ教育総合研究所による実証実験

◎4つの高校で「高校生未来プロジェクト」型のワークショップを実施

協力校　埼玉県立大宮光陵高校／東京都・私立白梅学園高校／大阪府・私立初芝富田林高校／山口県・私立慶進中学・高校

学校実施型への挑戦【P.10 ～ 13】

◎参加した生徒の変化

生徒インタビュー【P.14 ～ 17】

「自分の意見に反論されたことは、新鮮で面白い体験でした」
埼玉県立大宮光陵高校2年生 新間貴彬

「ワークショップの後、自然に机に向かう自分に驚きました」
山口県・私立慶進中学・高校5年生 矢儀丈博

「知識の大切さに気が付き、人と話すことが楽になりました」
埼玉県立大宮光陵高校2年生 河野帆夏

「みんなと話し合えたことそれ自体が、自分の自信になっています」
山口県・私立慶進中学・高校5年生 秋月真由子

◎実施した教師の気付き

座談会【P.18 ～ 22】

「自分の考えを十分に表出できて、ようやく生徒の視線は他者へと向けられていく」
埼玉県立大宮光陵高校校長 久保島昌一

「『人は、なぜ学ぶのか』を自分の言葉で語ることが、私たち教師には求められている」
大阪府・私立初芝富田林高校 前中マリヤ

「入学直後、学びの意味を語り合うことは、学習意欲の向上や人間関係の構築につながる」
東京都・私立白梅学園高校 中村雅一

「ワークショップは『これからは自分のことを語ってよいのだ』と生徒が気持ちを切り替える作業だった」
山口県・私立慶進中学・高校 西山智彦

寄稿　「高校生未来プロジェクト」が示す、更なるターゲット　オックスフォード大教授／元東京大教授 苅谷剛彦【P.23】